２．現状と課題の整理と分類

横須賀の社会教育、社会教育施設のあり方を考えるため、１において列挙した現状と課題を以下の８点に集約した。さらに、１～８の課題を、「横須賀の社会教育で大切にすべきこと」、「市民の学びを支援する社会教育施設に求めること」、「社会教育委員が果たす役割」の３つに整理分類し、その向き合い方への具体的な検討を行い、今後のあり方の方向性を示していくこととした。

次章において、横須賀の社会教育における共通理念について整理し、３つの分類について、第３章から第５章において、それぞれのあり方をまとめた。

No	検討すべきテーマ	分類
1	現代的・地域的課題に向き合う社会教育	３章 横須賀の社会教育で大切にするべきこと （12 頁～18 頁）
2	地域人材や地域資源を生かした社会教育	
3	学びの機会を保障する社会教育	
4	市民主体の地域づくりを支える社会教育	４章 学びを支援する社会教育施設に求めること （19 頁～29 頁）
5	人のつながりを生み出していく社会教育施設	
6	市民が安心して活動・利用することのできる社会教育施設	
7	社会教育施設の調査研究機能を生かした教育支援	
8	社会教育委員が果たす役割	５章 社会教育委員が果たす役割（30 頁～32 頁）

2章　横須賀の社会教育における共通理念

横須賀の社会教育、社会教育施設の現状と課題への向き合い方を検討するために、横須賀の社会教育において大切にしていくべき共通理念を以下のとおり整理した。

1．共通理念を構成する考え方

（1）市民一人一人の人間形成

○「教育」の営みは、目指すべき人間像があり、そこに向けた人間形成そのものである。「教育」は、各個人で完結する「学習」（自学・自習）とは異なる。利用者及び学習者相互、あるいは施設職員と学習者といった他者との関係性の中で成立するものである。

○社会教育は、「教育」である以上、ただ学習の場を提供するだけではいけない。また、学習者を学びっぱなしの状態で終わらせ、放置してもいけない。ただ、学ぶだけであれば、必ずしも社会教育として行う必要はない。学習者や利用者を次の学習機会及び学習の場にいかにつなげていくか、学習者や利用者同士をいかにつなげていくことができるのかという視点で、社会教育行政及び社会教育施設の職員は業務にあたることが重要であり、その点を常に意識すべきである。

○社会教育においては、市民の学びをいかにすればより良くしていくことができるのかといった視点で、学習環境や利用条件を整え、必要とされる人に行きわたるように学習支援・サポートしていくことが重要である。社会教育に携わる職員は、学習支援者*20である。

○憲法に則って教育基本法があり、その教育基本法に則った社会教育法に基づいて、各社会教育施設が存在する。社会教育施設は、要求課題*21、必要課題*22に応じた市民の「教育を受ける権利」*23「学習権」*24を保障していく場である。この点が、他の貸館等を主たる目的とする公共施設とは異なる点である。教育施設としての意義を行政ならびに各施設の職員等が意識していくことが重要である。

（2）様々な社会的な問題への市民意識の醸成

○多様化する現代社会の中で、特に学ぶ必要があること、主体的に考えてほしいことを「教化」*25ではなく、教育機会として意識的に提供していくことが社会教育にとって重要である。

○社会の様々な課題等について学ぶことができ、市民の社会的な意識や価値観の醸成につなげていくことが社会教育の役割として重要である。また、それこそが社会教育のアイデンティティ（社会教育とは何であるかということ）でもある。

○現代的課題や地域的課題の課題解決につなげるという部分については、社会教育の範疇だけではその対応は難しい。教育委員会以外の様々な部局、機関、団体、市民との連携なしには解決できない。社会教育は、市民の社会参加への意識あるいは様々な社会的な問題への市民の関心を高めるという点に、まず力点をおくべきである。社会の様々な課題解決や学習成果の活用は、社会教育以外の領域との連携が不可欠であり、それを前提としたうえで、さらに次の段階として展開させていくことが重要である。

（３）市民相互の学び合い

○学校教育のなかだけで、社会的な意識や価値観をすべて学ぶことには限界がある。社会教育では、様々な世代を超えた交流機会、帰属意識の異なる他者同士が学び合う機会を柔軟かつ様々な形態で意識的に設けていくことができる。社会教育は、相互理解を深めていく学びにおいて有効である。市民の社会的な価値観を醸成する、あるいはその人の周囲にいる人たちの社会的な意識や価値観をより高めていくことにつながる双方向の学び合いにとって社会教育が果たす役割は大きい。

○社会教育は、相互理解を深める学びにつながるものであり、そのなかで、他者との考えや行動の違いを認め合うことも重要な要素である。一つの解答を導き出すことが難しく、世論で意見が分かれるような社会的な課題、あるいは社会的少数者が抱えている課題などを正面から学習課題として受け止め、そうした課題をテーマとした学習機会や学習の場を積極的に設けていくことは、社会教育にとって重要である。特に、政治的に公平・中立である教育委員会の社会教育行政は、そうした課題に対して正面から向き合い学習テーマ化することが可能である。横須賀の社会教育は、教育行政のなかで行っており、あらゆる社会的な課題を正面から受け止め、学習テーマ化できる存在であるべきである。

○社会的な価値観や意識の醸成は、住民自身が主体的に議論しながら考えていくべきものである。住民が主体的に参加していくきっかけにつなげる必要な支援（情報提供や学習集団の組織化）を提供していくことが社会教育行政や社会教育を支援する人には求められる。

○市民の学び合いを大切にしながらも、一歩前に進めていく「教育」の側面が社会教育として重要である。

2．横須賀の社会教育における共通理念

上記の共通理念を構成する考え方を踏まえ、横須賀の社会教育における共通理念を以下のとおり整理した。

・「市民一人一人の人間形成」を支えるため、社会教育施設には社会教育に携わる職員の存在が必要不可欠である。

・横須賀の社会教育に携わる職員は、市民が主体的に学び始めるための支援を行うとともに、市民を次の学びの機会、あるいは次の学びの場につなげていき、さらに学びを生かした活動につなげていくことができるように、その必要な支援や役割への意識をもつべきである。

・「市民の社会的な意識や価値観の醸成」を図るため、横須賀の社会教育においては、市民が学ぶことを通じて、心の変容や行動の変化が生じるように工夫すべきである。市民一人一人の成長につながる教育の機会と場が今後も絶えず保障されるべきである。

・「市民相互の学び合い」を充実していくため、横須賀の社会教育では、一つの解答を導きだすことが難しく世論で意見が分かれるような社会的課題や社会的少数者に関する課題なども正面から学習テーマとして捉え、今後も、多様な教育の機会と場を提供する教育行政であるべきである。

以降、３章「横須賀の社会教育行政で大切にするべきこと」、４章「学びを支援する社会教育施設に求めること」、５章「社会教育委員が果たす役割」は、ここで整理した横須賀の社会教育における理念を踏まえて検討を行った。

3章　横須賀の社会教育で大切にすべきこと

２章で整理した横須賀の社会教育における共通理念を踏まえ、横須賀の社会教育で大切にすべきことを以下のとおり整理した。

１．横須賀の社会教育で大切にすべき要素

（１）現代的課題・地域課題に向き合う社会教育

（ア）市民の社会的な価値観の醸成等、一人一人の人間形成に資する役割

○講座等の参加者を学習者として捉え、アクティブラーニング*26などを含めた形で、社会的価値観の醸成、意識や行動の変容、次の学習機会に結び付けていくなど、一人一人の人間形成を行っていく点に社会教育のアイデンティティがある。

○学んだことをより掘り下げて一人一人の学びを発展させていく学習支援（学習相談、研究本などの蔵書、資料の収集など）を充実させることで、よりよい学びの循環を目指すべきである。

（イ）様々な部局や団体等との連携

○学んだことを生かしていくことができるようにしていくためには、社会教育の枠組みの中だけではなく、広く市長部局や様々な地域団体との連携が不可欠である。

○社会や地域の課題解決を目的とする取り組みは、社会教育、市長部局等とが連携して、相互に情報共有を図りながら、進めていくべきである。

○コミュニティセンターの職員間で共有する掲示板の充実を図り、情報共有や情報収集に努める体制を強化すべきである。

○生涯学習課がコミュニティセンターとの連携を高め、社会教育の観点から必ず開催してほしい講座や地域課題を考える講座など、学習機会の方向性を提案していくことが必要である。そのためには、生涯学習課とコミュニティセンターの調整の場を設けることも必要である。

参　考

現代的課題・地域課題における課題を検討した際、個別・具体的に最も取り上げられた課題は、家庭教育の課題対応に関する支援、課題解決に向けた支援に関することであったことから、その内容について、参考に記すものとする。

●家庭教育の課題等への支援について

・おはなし会は楽しむだけにするのではなく、本に親しむことの意味や横須賀の子どもたちの読書環境を知ってもらう機会や場をもっと積極的に作っていくことで、小中学生期の読書習慣につなげていくことが重要である。
・コミュニティセンター等の家庭教育学級では、食や音や匂いなど五感で感じられるような「～育」といったようなものをもっと取り入れていくとよい。
・子育てを終えた方や現在子育て中のお母さん方と一緒に講座の企画運営を行うなど、子育て中のお母さん方の視点を取り入れるような試みが広がっていくと、プログラムも魅力的になり活性化していくのではないか。
・家庭教育学級など、家庭教育支援に関する事業は、様々な課題を参加者相互が話し合いながら、掘り下げ、深化させていく視点が必要。時代や家庭環境の変化に対応しながらも、親自身が主体的に学ぶという基本は大切にするべきである。
・「ケータイ」や「スマホ」の問題のように、大人が話すよりも、高校生や大学生など子どもたちより少し年長の人たちから聞いた方が学べることが多いものもある。子どもたち相互の学び合いを大切にし、学校などと連携して、目的に応じて柔軟なプログラムを企画していく視点も重要である。

⇒以上の点から、家庭教育の課題等への支援においては、様々な部局、団体、住民、学生等との連携を図りながら、家庭内における子どもの学習習慣（子どもの読書活動に関すること等）及び生活習慣（携帯電話やスマートフォンの危険性の問題等）について、特に保護者等へ子どもの未就学期から就学期にかけた切れ目のない教育的支援を行うことが必要である。

（２）　地域人材や地域資源を生かした社会教育

（ア）学校・地域との連携

○学校教育との関係、あるいは学校や地域との連携の中で、社会教育としては何ができるのか、どのようなことが求められているのかを積極的に検討をしていくべきである。

○市民の地域活動拠点となるべきコミュニティセンターの利用状況に関しては、様々な団体の活動が重複する時間帯の部屋の予約が非常に取りにくい状況が続いている。地域住民の活動場所として、学校施設の開放について、充実していくとともにその利用方法等について、広く周知啓発していくことが必要である。

○コミュニティセンターでは、地域の特色、地域人材の発掘や活用を含めた地域資源を活用した事業が展開されており、その地域でなければできない事業が展開されている。社会教育において非常に重要な部分を担っている。地域資源をいかに活用し、そのためにはどのような人材が必要で、その手段としていかなる連携が必要であるのかといった視点で、必要な教育機会と場を提供していくことが重要である。

○地域の行事等に小・中学生が参加することは有意義なことである。学校側に地域の行事への子どもたちの参加の理解を得られるように、普段から学校と地域とがコミュニケーションを重ねていくことが重要である。

○コミュニティセンターのサークルメンバーが小学校に出向いて、児童たちに教えたり、レクチャーを行っている活動もある。社会教育には、そうした市民が行う教育活動を支えていく役割もある。

（イ）市民の財産である地域資料を保存し、将来に継承していく役割

○横須賀の図書館、博物館、美術館などにおける収蔵資料の保存環境は、大変深刻な状況にある。市民の貴重な財産を将来に継承していくために、収蔵庫の充実が喫緊の課題であり、対応の必要性は高いといえる。

○一方で、収蔵資料を保存し後世に向けて守っていくためには、博物館、美術館等の各施設の限られた人員や予算の中だけでは、今後その対応が困難となる可能性もある。持続可能な保存環境としていくためにも、収蔵資料を市民の財産である地域資料と捉え、市民の協力を得て一緒に進めていく考え方も大切である。市民や民間に依頼できることがあれば、積極的に関わりをもち、社会教育施設と市民が一体となって将来に地域資料を継承していく方策も柔軟かつ積極的に取り入れていくべきである。

○資料の収集、選定、整理分類、保存といった一連の作業には、学芸員等の専門性を有した人材の存在が必要不可欠である。学芸員等の専門的職員と市民がボランティア等で協働しながら、市民の財産である地域資料を後世に継承していくことも必要である。

○展示資料や収蔵資料を有している博物館や美術館だけでなく、文献や資料を有している図書館、地域行事や利用者の活動記録などを有しているコミュニティセンターや生涯学習センターも、必要に応じてデジタルアーカイブス*27 化を図り、地域の記録を留めていくことも大切である。その記録を学習教材化や市民への啓発用ツールとして、メディア活用していくことも、今後多角的に検討していくことが必要である。

（３）　学びの機会を保障する社会教育

（ア）教育を受ける権利、学習権を保障する社会教育

○市民の教育を受ける権利や学習権を保障することは社会教育において重要である。

○学ぶ必要性の高い学習テーマであるが、民間教育事業者では採算性が合わず取り上げることが難しい分野、見過ごされてしまいがちであるが社会的に大切なテーマ、世論で意見が分かれるような現代的な課題等については、横須賀の社会教育として、今後も正面から必要な学習課題として受けとめていく姿勢を大切にして欲しい。市民に多様な学習機会を保障していく社会教育行政であるべきである。

○障害者や高齢者、体が不自由な方、あるいは経済的・時間的な理由で学ぶことが困難な方々等、誰もが安心して学ぶことができる学習機会と場を保障していくことが重要である。そのために、アウトリーチ*28 の手法を取り入れ、より学習者に身近な存在としていくことも必要といえる。

○勉強が苦手な子や外国人の子どもたち、学びたいが学べない環境にある人たちへの機会や場の提供等に関する教育的な支援は横須賀の社会教育において、取り上げていくべき課題の一つである。一方で、学校、町内会館、コミュニティセンターなど地域の様々な施設で、ＮＰＯ*29 や市民活動団体等による公的な学習支援の輪も広がっており、そうした活動や場を重層化していくことも課題解決に向けて重要である。また、そうした地域で重層化した活動や場の情報収集及び情報提供は、特に生涯学習センターの重要な機能である。

○図書館では、インターネットで簡単に借りたい図書の予約が可能となっているため、本のリクエストが年々増えており、図書の配送作業に人員や時間を割かれ、企画展示やレファレンス、市民協働への取り組みなど、図書館の教育的事業が追いついておらず、本来業務に支障が生じている。市民の利便性と相反する部分もあるが、図書館が行う教育的事業にも目を向ける必要があり、全体のバランスをとっていく必要がある。インターネットによるリクエスト本の受付について、現場の状況を鑑み、

多少の制限を加えていくことへの検討も必要である。

（イ）人間形成につながる教育支援

○社会教育は、人間一人一人の心の中に種を植えて、遅いか早いかではなく、いずれ花を咲かせていくようなものである。10年後、20年後に、その子、その人の心の中に何が残っているのかが大切で、社会教育の成果は、幅をもたせて長期的に捉えていく視点が必要である。

○社会教育は、目指すべき人間像があり、そこに向けた人間形成である。学びを通じて市民の意識の変容や行動の変化につなげ、各学習者の成長を目指していくといった目的で条件を整備し、そのために必要な学習支援やサポートが社会教育行政や社会教育施設には求められる。ただ、学ぶだけであれば社会教育で行う必要はない。市民が次の学びの機会や場につながっていくことができるように支えていく役割は、社会教育に携わる職員の重要な職務である。収集した様々な学習情報の中から市民の学習要求に近い情報を提供し、様々な学習相談に応えていくことが求められる。各社会教育施設では、学習情報提供機能や学習相談機能の更なる充実が必要である。

○趣味・サークルで好きなことをやっていても、生かし方によって社会貢献や地域貢献にもつながる。各社会教育施設の特徴を生かしながら、どのような工夫や促し方を行うことができれば、利用者や学習者の学びの成果の活用につながるのかを社会教育主事や学芸員等の専門的職員は念頭に置きながら、様々な学習計画等で具現化していく工夫を検討されたい。

（ウ）市民への積極的な情報発信

○各社会教育施設で個別に非常にすばらしい事業を行っていても、それがうまく市民に発信されていない。市民の目に留まり、注目されるようにしていくためには、更なる工夫が必要である。行事やイベントの開催情報の発信だけでなく、実施した事業の風景や学芸員等の専門的職員のコラム、各施設周辺の四季の移ろいや歳時記など施設の職員には当たり前と思われるような日常の様子や身近な情報も含めて、提供可能な情報源として捉え、多様な情報を柔軟かつ積極的に発信して多くの市民の目をひきつけることが重要である。

○各社会教育施設の現場で様々な検討を行い、多くの市民に来館していただく方策を考えなくてはいけない。そのために、広報活動は非常に重要な手段である。各施設の限られた広報にかかる予算枠の中で、その広報をより効果的に行っていくために

は、縦割りではなく、横串を指すような形で、それぞれの施設が連携し、持っている予算を分け合いながら、よりインパクトのある情報発信を進めていくことが重要である。各施設の個々の予算を自分の施設の広報だけに使うのであれば、その効果は限定的である。効果的な広報を進めていくためにも、各社会教育施設が積極的に連携し、その広報手段について「シェア」していくことが必要である。

○図書館、博物館、美術館、生涯学習センターなどの情報をまとめて参照することができるように、横須賀の社会教育・生涯学習に関する一体的・統合的な情報発信媒体あるいはその仕組みを検討することが必要である。